



## 十二月(しわす)には 沫(あわ)雪降ると 知らねかも 梅の花咲く ふふめらずして

12月の万葉集 8巻-1648 紀少鹿女郎  
十二月になっても淡雪が降ることがあるのよ。それを知らずに早々と咲いたのね、梅の花さん。蕾もつけない内に…。

### 「竹取物語」の屏風が寄贈されました!

月日の経つのは早いもので、2023年(令和5年)も残すところ、あと20日ほどとなりました。暦の上では、24節気の21番目である大雪(たいせつ)も過ぎ、いよいよ冬本番を迎えています。各家庭でも師走を迎え、慌ただしい日々を送っておられることと思います。学校・園では2学期のまとめの時期となり、学期末に向けて懇談等が予定されています。

この2学期を振り返ってみますと、子どもたちにとって、また教職員にとってもこの期間は本当に忙しい日々であったと思います。新型コロナウイルス感染症の脅威もほぼなくなり、コロナ前の状況になった中で、運動会・体育大会をはじめ、校外学習、芸術鑑賞会など様々な園行事・学校行事がありました。それらを通じて、子どもたちは着実に様々な「力」を付けてきたように思います。特に、行事等の取組をする中で「がんばった」「やったー」「できたー」などの達成感や成就感を味わったとき、また、まわりの人たちから認められたとき、子どもたちにとって必ずそこには自信が芽生え、自尊感情や自己肯定感が高まると思います。教育委員会としても、これからも「子どもたちのために」を心に刻み、学校・園の応援団として、様々な「力」を身に付けてもらえるために更なる努力をしていきたいと思っています。今後ともご理解・ご協力をよろしく願いいたします。



ところで、先日、画家の大谷笙紅(しょうこう)氏から日本最古の物語とされる「竹取物語」をモチーフにした5点からなる屏風作品を、竹取物語ゆかりの地である広陵町に、すべてを寄贈したいとの申し出がありました。先月の3~5日に開催した広陵町文化展覧会において、作品の一部を展示・公開したところ来場された皆さんから非常に高い評価と賞賛の声がありました。

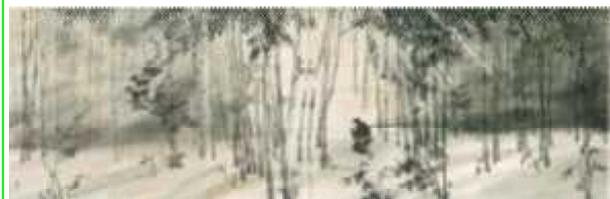
そんなことから、先週の12月5日(火)にさわやかホール4階の大会議室にて、全作品を展示して作品の贈呈式及び感謝状贈呈式を開催しました。はじめに、大谷氏のプロフィールと作品の紹介がありました。

大谷氏は、大分県生まれで、4年間、中学校の教員をされた後、花王に入社され、10年後には女性初のブラ



ンドマネージャーとなりましたが、お母さんの介護で退社され、その後禅画を学ばれたのち、墨相画家として数々の作品を手がけ、現在は人の心と天の意思が和合する新境地の天相画の世界を描かれています。

5つの作品の紹介では、第1作目「一会の譜」では、竹取の翁が光る竹の中から赤子である「かぐや姫」を見つける場面を、第



第1作目 「一会の譜」

2作目「和の詩」では、生い茂る竹や木々の中で遊ぶ幼子の姿を、第3作目「魂のふるさとを求めて」では、竹と梅、杉の間にかすかに見える2人の影を、第4作目「帰幸螢(きこうぼたる)」では、夜の静寂に美しく群舞する螢たちの輝きを人間の魂におきかえて描かれ、最後の5作目「安心(あんじん)」では、大きく描かれた満月にかぐや姫が人々と帰る様子と魂の故郷の安らかさが描かれています。



第5作目 「安心」

大谷氏のあいさつの中で、「12年間を費やして制作した「竹取物語」の5作品を竹取物語ゆかりの地である広陵町に寄贈できたことをうれしく思うとともに自分の子どもを広陵町に嫁がせたような思いを持っている。」というお話しをされました。

画壇でも高い評価を受けられている大谷氏が、熱い想いと情熱をもって描かれたこれらの作品が広陵町にあることをとても誇らしく、そしてありがたい限りです。教育委員会としては、これらの作品を町民の皆さまに直に目に触れていただき、感動を覚えてもらえるような展示の取組を考えていければと思います。

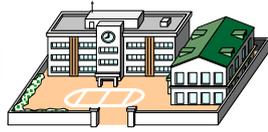


### 今月の一言

相田 みつを

セトモノと セトモノと  
ぶつかりっすると すぐこわれちゃう  
どっちな やわらかければ  
だいじょうぶ やわらかいところを もちましよう  
そういう わたしは いつも セトモノ  
固いセトモノの心を持つと人との関係がこわれてしまいます。  
やわらかいところをもてばいいのですが、それはかなり難しいことですね。

## 学校の様子



### 3つの小学校で周年記念式典が開催されました！

11月10日(金)に真美ヶ丘第一小学校の創立40周年記念式典が、11月15日(水)に広陵北小学校の150周年記念式典が、そして12月1日(金)に広陵西小学校の150周年記念式典が開催されました。

真美ヶ丘第一小学校は、真美ヶ丘ニュータウンの開発に伴い、緑豊かで四季折々の草花が咲き誇る公園も数多くあるすばらしい環境の中、昭和59年4月に町内4番目の小学校として開校されました。オープニングには、サプライズとして、吉本興業の芸人、ミサイルマンの西代さんとサバナナの八木さんに来てもらって、会場が大いに盛り上がっていました。また、和太鼓集団「倭-YAMATO」の演奏があり、子どもたちや保護者の皆さんは荘厳な太鼓のパフォーマンスに魅了されていました。



広陵北小学校は、明治5年の学制が発令されてから2年後の明治7年に萱野村小学校協習館として開設されました。私もこの小学校の卒業生で、祖父母の代から息子に至る4世代がお世話になりました。式典後の第2部では、1年生から6年生までの学習発表が行われ、それぞれの学年に応じた発表は、微笑ましく思うと同時に子どもたちの真剣な演技などに心を奪われました。特に1年生の「くじらぐも」の音読劇は一人一人感情を込めてしっかりと表現していたことに感動しました。



広陵西小学校も、北小学校と同様、明治5年の学制が発令されてから2年後の明治7年に、安部村浄土寺を勸習舎、赤部村長福寺を静聞舎、斎音寺村蓮台寺を維新舎として開設されたことが起源となっています。オープニングには、4年生による「未来目指して」の合唱、「レイダース・テーマ」の合奏があり、

息の合った演奏に魅了されました。式典後には、西小学校を卒業され、アトランタ、シドニー、アテネオリンピックで金メダルを獲得された柔道家の野村忠広さんが、子どもたちが考えた様々な質問に対して、丁寧にそして真摯に答えておられました。中でも、オリンピックなどの大きな試合に臨む前には鏡に写った自分と自問自答していたことや弱かった自分がここまで強くなれたのは日々の練習と努力によるものなど、努力すれば必ず夢は叶うと子どもたちに熱くて強いメッセージを送られていました。



## 広陵中学校

### 車いすダンスを通じて芸術と福祉の学びを体験！

11月17日(金)に文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業・ユニバーサル公演事業」として、1年生を対象に車いすダンスが開催されました。大阪を拠点に活動されているジェネシスさんが車いすダンスを通じた障がい者理解の講演もしてくださいました。生徒たちは、車いすダンスの迫力ある演技に圧倒されるとともに実際に生徒と教員、生徒どうしでの車いすダンスを体験することで、障がい者理解につながったようでした。特に、大和郡山市出身のダンサーである実咲さんの障がい者として生まれた、自身の実体験と車いすダンスに巡り会い、今は生きがいを感じてがんばっている姿に生徒たちは感動していたようでした。



## 広陵北小学校

### 「伝えよう私たちのまち」

11月22日(水)の2時限目に伊賀市立府中小学校3年生と北小3年生とのオンラインでの交流授業がありました。この取組は、2年前に広陵町がゴミ処理の関係でお世話になっている伊賀市の岡本市長と山村町長が話された中で、「子どもたちどうしがオンライン授業を通して、つながり合えれば」と言われたことをきっかけに、私がどこかの小学校でやってほしいと提案したことから、今回の交流授業となりました。はじめに、北小の3年生が4~6人のグループごとに町探検などで調べた地場産業の靴下製造やなす栽培、校区にある三笠産業、戸たてまつりなどについて発表しました。次に、附中小からは、伊賀市が松尾芭蕉の生まれ故郷であることや伊賀忍者、梨が有名なことなどを発表してくれました。その後、互いに発表した内容についての質問をしながら交流し合っていました。子どもたちにとって、遠く離れた地域とこのような取組を通じてつながれることは素晴らしいことだと改めて感じると同時に日本だけでなく世界の国々ともつながればいいのではと思いました。



### 画期的な授業を参観！

11月21日(火)に東小学校でGIGAスクール推進委員会の公開授業を4年1組の担任である小走先生にいただきました。算数における面積を求める単元で、クロムブックを活用しての自由進度学習という新たな授業方法で、子どもたち一人一人の進度に合った学習形態の授業でした。自身が立てたためあてにそって、一人で学習を進める児童もいれば、2人・3人と机を合わせて、教え合いながら学習している児童もいました。教師主導型の授業ではなく、まさに主体的で対話的な学びを子どもたちは楽しい雰囲気の中で学び合っていました。



